

平井まち子

市会報告

http://www.55machiko.jp

平井まち子 検索

まちこPRESS VOL.28

【発行】自民党神戸市会議員団
神戸市中央区加納町6丁目5-1
神戸市役所1号館28階

2013年2月議会報告(2/19~3/28)

市会本会議で一般質問

新たに2会期制を導入したことに伴い、平成25年度第1回定例市会の会期は、2月19日から6月26日までの128日間となりました。このうち、前半が2月議会、後半が6月議会となります。2月議会では、平成25年度予算及び関連議案を中心に審議しました。

また、この定例市会から「一般質問」を導入。これまでの各会派を代表して質問する「議案外質問」に代わるもので、議員が個人の立場や観点で市政全般に對して質問できます。

自由民主党神戸市会議員団の第1回目の質疑者は平井真千子(長田区選出)となり、3月28日に市長及び関係当局に質疑を行いました。

一般質問(要旨)

デザイン都市について

問 市の各種施策に「デザインの視点が実践されるためには、デザインとは何か、どう自分の仕事に活かされるのかについて、全職員がスキルアップし理念を共有することが必要である。現在「デザイン都市推進室」で行っている、広報物などを作成する際にクリエイターと連携する「+DESIGN」の取り組みは、職員がデザインの仕事への落とし込みを理解できる効果がある。個々のスキルアップの観点から研修を行うだけでなく実践的な取り組みを強化すべきと考える見解を伺いたい。

答 (齊木統括監)「デザイン都市・神戸」の実現に向け、職員に研修を行うだけではなく、ポスターを制作する職員に「デザイナーが製作プロセスをレクチャーする研修も実施している。また、各職場でボスター・サイン、印刷物を制作する際に、デザイナーーや市内「デザイン教育機関」との連携を積極的に進めている。これらの取り組みは、デザイン都市・神戸の推進の入り口で、そこからどうものづくり、くらしづくり、まちづくりへ展開するかが重要である。日々具体的な行政課題をデザイナーとともに考える場をK-UNITOに設けたいと考えている。その中で新たな発想による解決手法などを重要なプロセスを学べるようにしたい。

問 デザインには広い視点があるが、わかりやすいものづくりの部分で職員に効果を体感してもらいたい。「府内+DESIGN」でのクリエイターとの連携・コンペはクリエイターを育てる过程中に繋がる。「神戸にいたらデザインの仕事ができる」という街になつてほしい。

人口政策について

問 長田区は、市内で高齢化率が一番高く、人口も昨年度から10万人を下回り変化が顕著である。これまでも活性化策がとられているが、神戸市基本計画や区計画にはどれくらいの人口規模や人口構成を目指していくのかは盛り込まれていない。長田区のあるべき人口規模や人構成をどのように設定し、どのように政策誘導していくべきと考えているのか伺いたい。

答 (中村副市長)この一年、透明性の確保の観点から、会社ともいろんな議論をしてきた。今回会社が設置をした「外部委託先選定に関する検討並びに評価委員会」では、区分所有者の視点に立った議論が行われた。市としては、全てのビルの区分所有者による十分な議論と共通の認識が何よりも必要と考えている。経緯があり、地元のまち協等の提案を踏まえて今日があるが、今後の管理のあり方は、全体で協議する場が必要。皆さんとそういう場で議論を重ね、区分所有者の共同の利益となるように取り組み、判断をしていきたい。

問 予算の承認が行われずに、神戸市が権限抜きに議決で変更できるところから、番館ごとに管理者を変更するという道はとるべきではない。現在、多数の区

分所有者の方が管理者の変更を望んでいるのは確かだが、乱暴なやり方をしてしまえば、結局まちの中に対立が残る。なに崩し的に管理者を変更していくことは違うということを確認したい。

答 (中村副市長)管理者の変更は手続として担保されているが、基本的に今はこの形が望ましい。地元も望んで今日があるという認識の上に立って対応してまいりたい。

問 管理問題について
24年度のアスタクにづか各棟の管理予算の暫定承認期間は切れて久しくなっているが、年度末を迎えた最近になっても集会がほとんど開かれないので、年度予算でより良い管理になっていく見込みは厳しい。そこで、この先のビル管理のあり方はどうぞ自指すのか。このまま神戸市も態度を変えず、予算も区分所有者が承認をしないという平行線をたどるのか。神戸市も番館ごとに議決多数従属をし番館ごとに管理者を変更するのか、それとも地区全体の協議合意形成的の場を経て、全体の管理方式を検討するという道を選ぶのか、3つのうちどの道を目指すのか。

答 (中村副市長)国道以南の再開発エリアの活性化と資産価値の向上が急務との認識から、商業者へのアンケート調査の結果を踏まえ、市と地元の協働でプロジェクトチームをスタートした。從来の組織を横断し皆さんに参画をいただき、街の大膽なり「ユーチャルや施設コンセプトの見直しなど、ゾーニングの再設定を含むハードの整備のみならず、商店街・商業棟のルールづくり、抜本的な集客対策などソフト面の検討もしていく。今後は、プロジェクトチームに専門家も交えて有識者会議を開き、計画的具体化を行う予定である。25年度は事業実施に向けての調査分析と計画策定を行う。施設整備や新たな仕組みをできるだけ早く構築していきたい。

問 権利者である地元商業者の意見を中心進めることはもちろんだが、市民全体に広く理解を求め意見を聞きながら進めてほしい。まちに注目を集め、期待感を区民が持つことができる。また、一緒にまちを作りあげることにより、街への愛着を醸成すべきである。プロジェクトの企画の過程で、区民広報などで紹介し、意見を募集してはどうか。